

青森県の縄文遺跡群

青森県は、縄文文化の様相を今に伝える遺跡の宝庫であり、縄文時代の草創期から晩期までの各時期にわたる学術的に重要な遺跡が数多く存在しています。

青森県は、ヒバ・ブナなどの樹木に覆われた山脈が縦走する美しく豊かな自然に恵まれた地であり、我が国で初めて世界自然遺産として登録された白神山地は、地球上に残された最大級のブナ原生林を有し、太古の昔から変わらぬ自然が残っています。この白神山地のブナ林は、縄文時代に形成されたと言われており、それを母なる森としながら、日本列島の北の地に、我が国の文明の扉を開いたと言うべき縄文文化が育まれました。

青森県では、これらの縄文遺跡群は、人類共通の貴重な宝として未来に残すべき文化遺産であるとの認識のもと、世界遺産登録を目指しています。

史跡 大平山元遺跡 (外ヶ浜町)



大平山元遺跡から出土した無文土器は、最も古い約15,000年前のものと考えられており、定住のプロセスを探る上で極めて重要な遺跡です。

特別史跡 三内丸山遺跡 (青森市)



我が国を代表する縄文遺跡であり、集落の全体像や変遷、社会構造、自然環境や生業、精神性など、縄文文化を知る上で極めて重要な遺跡です。

史跡 小牧野遺跡 (青森市)



大規模な土地造成と特異な配石によって構築された環状列石を中心とする遺跡です。当時の先端的な土木技術を駆使して構築されています。

史跡 田小屋野貝塚 (つがる市)



日本海側の数少ない貝塚として重要です。ベンケイガイの貝輪(プレスレット)作りが行われ、北海道まで運ばれていたものと考えられています。

史跡 亀ヶ岡石器時代遺跡 (つがる市)

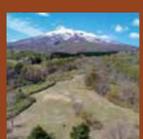


江戸時代から知られた遺跡であり、「亀ヶ岡文化」の名称の由来にもなった縄文時代晩期の遺跡です。有名な遮光器土偶は、ここから出土しました。



「遮光器土偶」(亀ヶ岡遺跡から出土)

史跡 大森勝山遺跡 (弘前市)



縄文時代晩期初頭から中葉に造られた環状列石を主体とする遺跡です。縄文時代晩期前半の土器や石器が発見されるなど、当時の精神生活を知る上で重要です。

史跡 是川石器時代遺跡 (八戸市)



縄文時代晩期中居遺跡、前期・中期の一王寺遺跡、中期の堀田遺跡からなります。特に中居遺跡からは赤色漆塗りの木製品や土器が多数出土し、縄文時代の漆工芸技術を考える上で重要です。

史跡 二ツ森貝塚 (七戸町)



県内で最大級の規模の貝塚です。人骨や幼犬の骨が出土し、現代と同様、ヒトとイヌの関係が深いものであったことを物語っています。

史跡 長七谷地貝塚 (八戸市)



東北地方では数少ない縄文時代早期の貝塚です。魚、鳥、獣を捕るための道具も多く出土し、縄文時代早期の漁労具は全国的に例が少なく貴重です。

※関連資産



国宝「合掌土偶」(風張1遺跡から出土)

●青森県内の縄文遺跡時代区分表

年代(紀元前)	13,000	9,000	5,000	3,000	2,000	1,000	300
時代区分	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	
大平山元遺跡	→						
長七谷地貝塚		→					
三内丸山遺跡			→				
田小屋野貝塚			→				
二ツ森貝塚			→				
是川石器時代遺跡			→				
小牧野遺跡					→		
大森勝山遺跡						→	
亀ヶ岡石器時代遺跡						→	